

2014 Vol.1 特集「言語活動を通じて高める生徒の力」へのご意見

このコーナーでは、編集部寄せられた読者の先生方からのご意見をご紹介します。

*『VIEW21』中学版のバックナンバーは「ベネッセ教育総合研究所」ウェブサイト(<http://berd.benesse.jp/>)でご覧いただけます。

◎新学習指導要領の軸であった「言語活動」も、移行期の流行の段階から、日常的な不易になってきたと感じています。そこで見えてくるのは、生徒に付けたい力をしっかり押さえたいれば、必然的に思考力重視の授業となり、言語活動を伴うものになるということです。「なぜ言語活動なのか」を忘れてはいけません。[静岡県/A中学校]

◎東京女子体育大の田中洋一教授の「一人で考える時間が活動を深める」という言葉が心に残りました。教員側から考えると、常に生徒が活発に学習活動に取り組んでいる授業を期待し、自ら学ぶ姿勢の中で一人で考えるという活動は見落としがちです。これを抜きに他の学習活動はあり得ないと思い、とても納得しました。考える活動は目に見えませんが、考えを発表したり発信したりすることにつなげたいと思います。[岡山県/C中学校]

◎東京都立川市立立川第二中学校の取り組みに共感しました。自信のない子どもが多い今、「根拠」に基づき、論理的に考え、表現する力を養うことは、とても良いことだと思います。本校でも取り組みたいと思いました。[東京都/D中学校]

◎近年、自分自身も社会科の授業を構想する上で、生徒が必要感をもって解決に向けて迫れる課題を設定するように心掛けています。佐賀県小城市立三日月中学校の真子先生の定期考査は、日頃の学習課題を生かした内容で作成されていて、参考になりました。[富山県/F中学校]

◎研究報告で述べられていた、生徒へ問い掛け続ける大

切さは私も同感です。しかし、つい我々教員は正解となるような返答を求めがちなこと事実です。正解に結び付くのだろうかと思ってしまう生徒からの表現(返答)こそ、むしろ教室内を考えさせる雰囲気にし、言語活動が活発になるという側面もあるのではないのでしょうか。今後も、教員の器の深さや幅の広さが求められると思います。[東京都/T中学校]

◎教育の目的は、生徒の良さを引き出すことだと思ってきました。「私を育てたあの時代、あの出会い」を読み、その手段の1つとして、「地域にかかわらせること」の大切さを改めて感じました。土日は部活を理由に、生徒がボランティアや地域行事へ参加することを見送ってききましたが、改善していこうと思います。[新潟県/Y中学校]

◎教員を長年して感じるのは、時間を超えて同じ課題が繰り返されることです。20年程前、授業でのパソコン活用が全国で盛んに行われました。「Benesse発 これからの教育」にもあるように、今また、ICTの時代が来ています。過去の実践や研究を土台にした、新たな展開が求められていると思いました。[新潟県/D中学校]

◎「ミドルリーダーの挑戦」の石川和代先生の記事は、私が思っていること、大切にしていることと非常に近く、自分のことを書かれているかのようで驚きました。授業と学級経営(特活)の連動は、もっと注目されるべきことだと思います。その仕組みが広く伝わり、若手の先生方の力になることを、心から期待します。勇気と活力をいただきました。[岡山県/S中学校]

子どもは未来

ベネッセ教育総合研究所は、
子どもたちの成長に寄り添う研究と
社会への発信を通して、
一人ひとりが学びに向かい、
今と未来を“よく生きる”ことに
貢献することを目指しています。

ベネッセ教育総合研究所

編集後記

8月に公表された「全国学力・学習状況調査」では、「全国平均と下位層の差が縮小」という結果でしたが、これはあくまで県平均の数値。学校単位、クラス単位で見ると、学力格差はまだ大きいとお聞きます。更に、今号の取材を通して、学力だけでなく、心身面や家庭環境等で多様な生徒が通う公立中学校における一斉指導の難しさを、改めて痛感しました。今号が少しでもご参考になればと思います。

ベネッセ教育総合研究所 情報編集室『VIEW21』中学版編集長 草場隆志

VIEW21 中学版 2014 Vol.2

2014年10月6日発行/通巻第322号

発行人 谷山和成
編集人 小泉和義
発行所 (株)ベネッセホールディングス

◎お問い合わせ先

情報編集室
〒206-0033
東京都多摩市落合1-34
電話 042-311-3390

印刷製本 凸版印刷(株)
編集協力 (有)ペンダコ
執筆協力 二宮良太、中丸満、長谷川敦
撮影協力 荒川潤、川上一生
イラスト協力 カモ、幸剛

© Benesse Holdings, Inc. 2014